

エコアクション21 環境活動レポート

(平成28年3月～平成29年2月)

認証・登録番号0000850



(三和興業有限会社事務所)



(近隣清掃)



(従業員教育)



(雨水利用タンク・ドラム缶・バケツ)

平成29年3月31日

三和興業有限会社

| 目次 | ページ |
|------------------------------|-----|
| 環境レポート | 1 |
| 事業所概要 | 2 |
| 施設概要 | 3 |
| 会社運営組織 | 4 |
| 三和興業案内図 | 5 |
| 環境方針 | 6 |
| 環境目標 | 7 |
| 環境目標の実績 | 8 |
| 主要な環境活動計画の内容と取り組みの評価と次年度の取組み | 8 |
| 環境関連法規等の遵守状況確認・違反、訴訟の有無 | 8 |
| 代表者による全体評価と見直しの結果 | 9 |

事業所の概要

1 事業所名

三和興業有限会社

代表者 代表取締役 久保田 芳男

2 所在地

〒192-0004

東京都八王子市加住町一丁目417-3番地

3 環境管理責任者 専務取締役・佐々木 悟

担当者(現場) 業務課長・平井 孝

担当者(事務) 業務課長・山室 亨

電話 042-691-1805

FAX 042-691-1806

4 事業所の規模

従業員数 47名

事業所面積

敷地面積 1454.47m²

延床面積 139.12m²

5 事業内容

八王子市可燃物収集運搬業務

八王子市・立川市一般廃棄物収集運搬業務

産業廃棄物収集運搬業務(東京都・神奈川県・横浜市・埼玉県・山梨県)

特別管理産業廃棄物収集運搬業務(東京都・神奈川県・埼玉県)

リサイクル品収集運搬業務

古物商業務(登録事業範囲:一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬)

年間収集運搬量

2005年3月～2006年2月 15160トン

2014年3月～2015年2月 29847トン

2015年3月～2016年2月 30345トン

2016年3月～2017年2月 30896トン

6 情報公開項目

・法人設立年月日 1968年11月15日

・資本金 2500万円

・売上高 4億9千万円

・組織図 別紙通り

7 認証・登録の対象範囲

全社・全活動

8 施設概要

ア. 許可内容

| 許可場所 | 許可番号 | 許可年月日 | 有効年月日 | 事業範囲 | 廃棄物の種類 |
|---------------------|--------------|-----------|----------|--------------------------|--|
| 東京都産業廃棄物 収集運搬業 | 13-10-002102 | H.28.10.1 | H33.9.30 | 収集運搬 積替え保管を含む | 燃え殻・汚泥・廃プラスチック・紙くず・木くず・繊維くず・金属くず・ガラス・コンクリート・陶磁器くず・廃油・廃産・廃アルカリ・動植物性残渣 |
| 東京都特別管理 産業廃棄物 | 13-51-002102 | H.25.8.6 | H.30.8.5 | 収集運搬 | 感染性廃棄物 |
| 神奈川県産業廃棄物 収集運搬業 | 1402002102 | H.22.9.5 | H32.9.4 | 収集運搬 | 燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残渣・金属くず・ガラスくず・がれき類 |
| 神奈川県特別管理 産業廃棄物 | 1452002102 | H25.8.12 | H30.7.22 | 収集運搬 | 感染性廃棄物 |
| 埼玉県産業廃棄物 収集運搬業 | 1101002102 | H28.1.11 | H33.1.10 | 収集運搬 | 燃え殻・汚泥・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・銚さい・がれき類・ばいじん |
| 埼玉県特別管理 産業廃棄物 | 1151002102 | H26.10.22 | H31.7.31 | 収集運搬 | 感染性廃棄物 |
| 山梨県産業廃棄物 収集運搬業 | 1900002102 | H25.3.4 | H30.3.3 | 収集運搬 | 燃え殻・汚泥・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残渣・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・がれき類 |
| 八王子市一般廃棄物 収集運搬業務 | 1 | H28.4.1 | H30.3.31 | 収集運搬(家庭系一般廃棄物特定家庭用機器廃棄物) | 紙くず・木くず・繊維くず・塵芥・残灰・特定家庭用機器 |
| 立川市一般廃棄物 収集運搬業務 | 11 | H28.4.1 | H30.3.31 | 収集運搬 | 事業系一般廃棄物 |

イ. 施設等の状況

| 運搬車両 | 種類 | 4tアームロール | 2tアームロール | 2tダンプ | 合計 |
|------|----|-----------|-----------|-------|----|
| | 台数 | 2台 | 2台 | 2台 | |
| | 種類 | 4tパッカー | 2tパッカー | 軽保冷車 | 合計 |
| | 台数 | 6台 | 16台 | 1台 | |
| | 種類 | 4tコンテナBOX | 2tコンテナBOX | 合計 | |
| | 台数 | 11機 | 13機 | 24機 | |

積替え保管施設 東京都八王子市加住町1-417-3

面積 1593.59㎡

保管上限量 36.58m³

ウ. 処理実績 別紙参考

エ. 廃棄物処理料金 見積もり及び廃棄物内容によって異なる

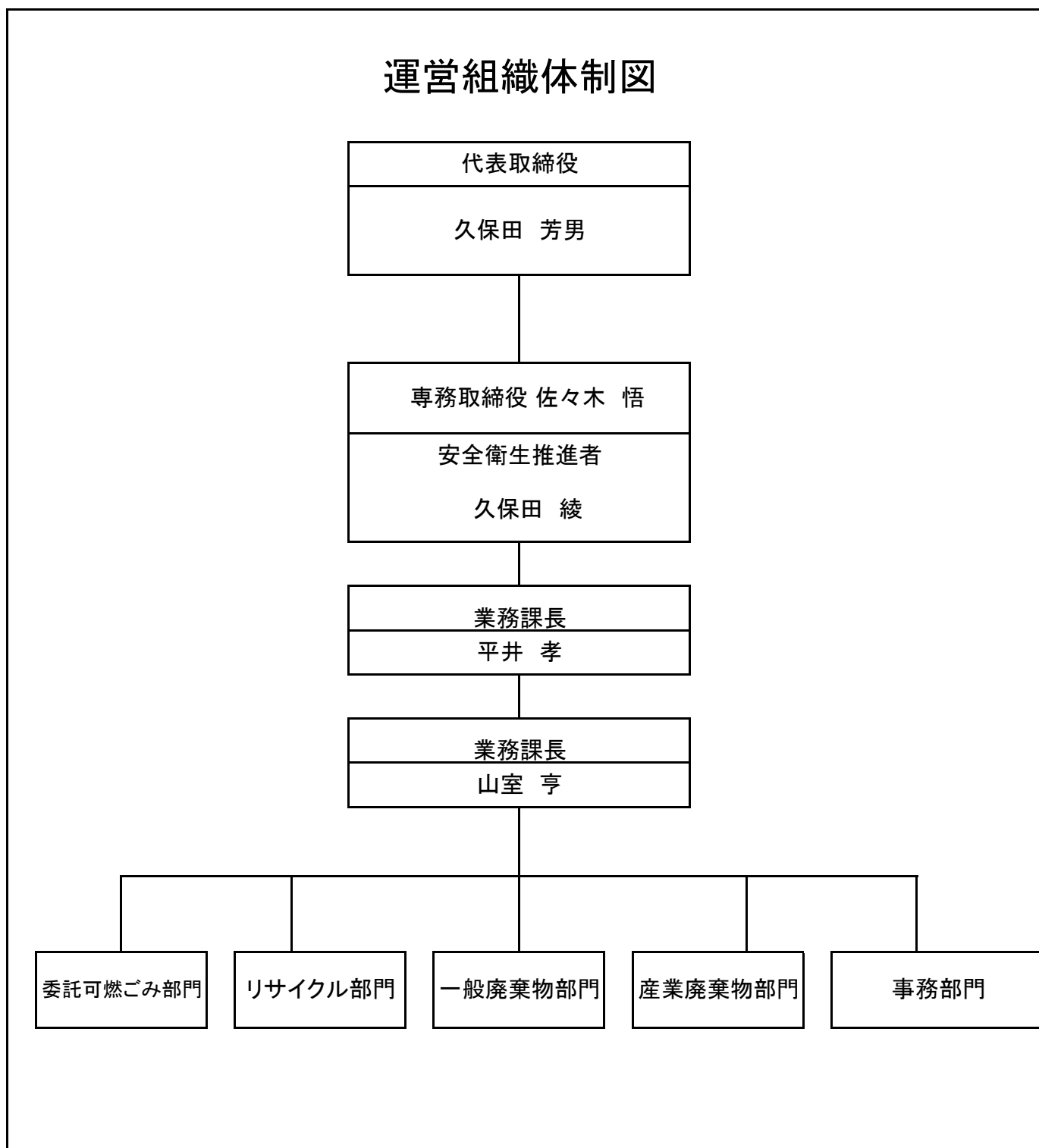
オ. エコアクション21認証・登録番号0000850

古物商許可商 第308830405216号

一般貨物自動車運送業

※ 会社運営組織

運営組織体制図

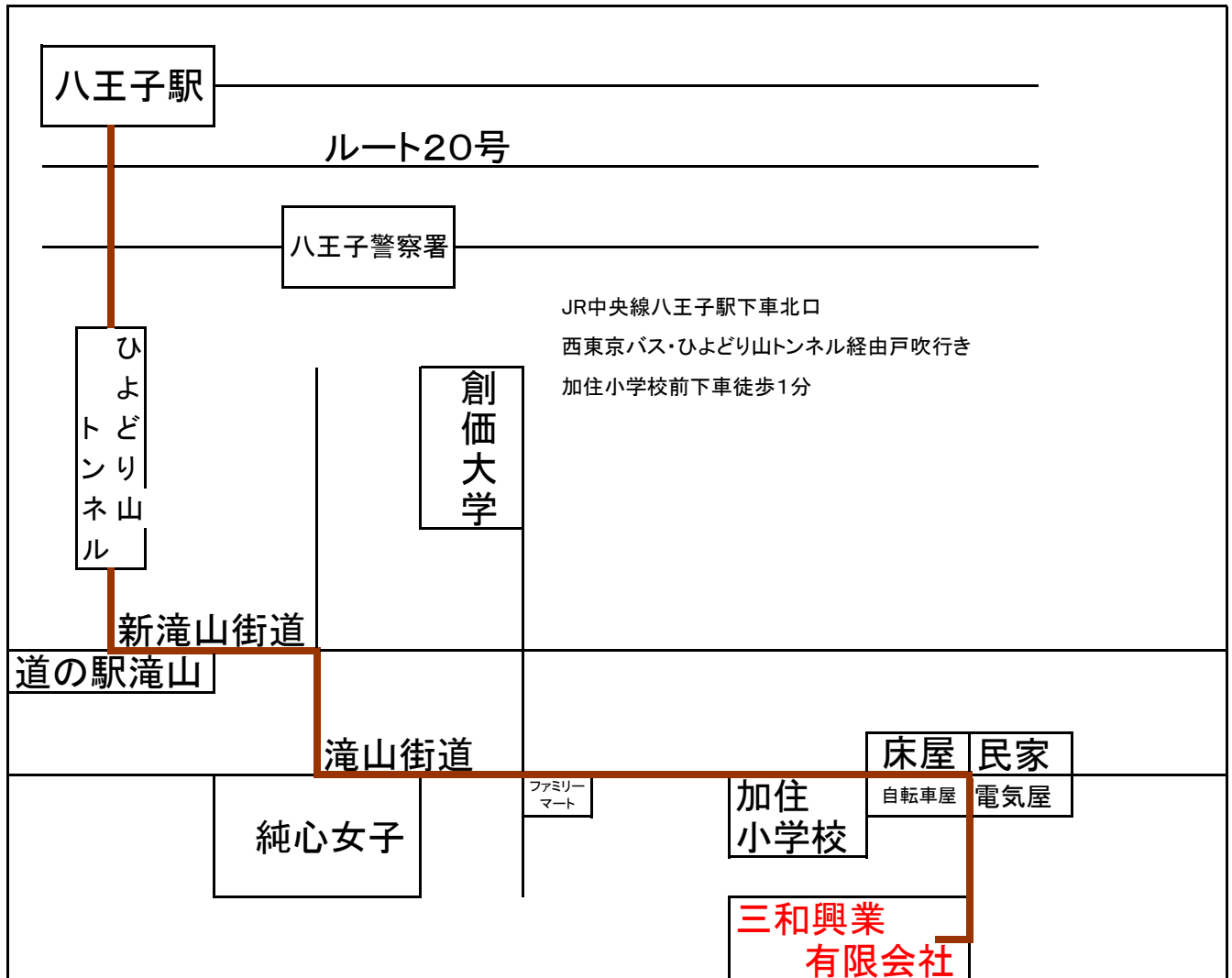


三和興業案内図

東京都八王子市加住町1-417-3

TEL (042) 691 - 1805

FAX (042) 691 - 1806



環 境 方 針

地域環境改善の一翼を担う企業である事に誇りを持ち、責任をより深く自覚して、絶え間なく資源の有効活用を主眼に於いて事業活動を行います。本年度は再スタート・再挑戦開始年と位置付けて経営力改善・強化に取り組む。

<行動指針>

- 1) 私達は環境保全に関する法規制等を遵守する。
- 2) 私達は事業活動の中で、二酸化炭素排出量・廃棄物発生量・水資源消費量の削減に取り組み環境負荷低減に努める。
- 3) 私達は5S・3M(整理・整頓・清潔・清掃・躰／無理・無駄・むら排除)を日常行動基本として事業活動を行う。
- 4) 私達は地域環境の一層の改善が地域住民共通の願いであると認識し、地域環境改善意識の更なる向上に努める。

2016年(平成28年)4月1日
三和興業有限会社
代表取締役 久保田芳男

環境目標

1 環境目標(2016年2月制定)

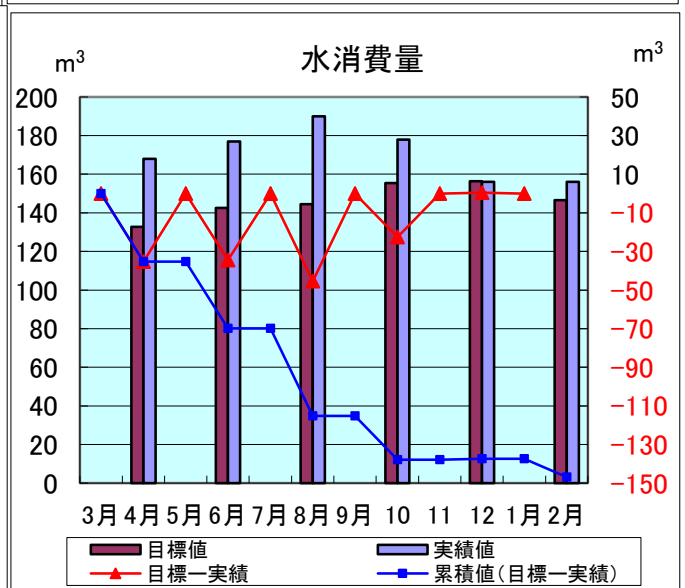
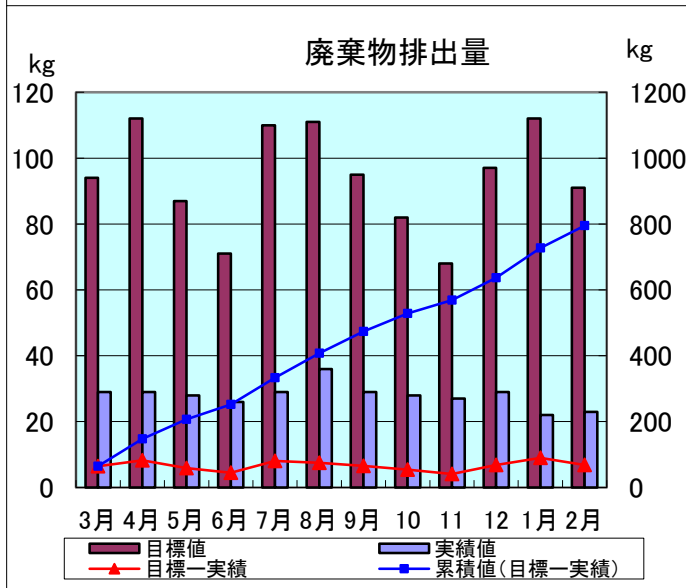
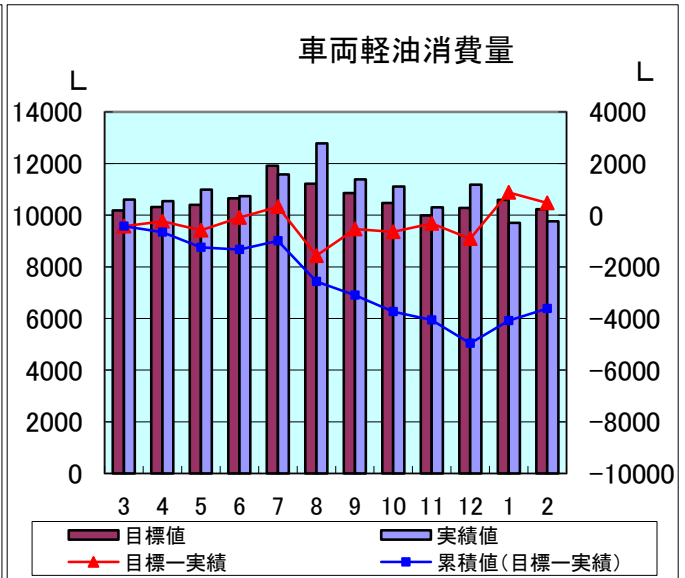
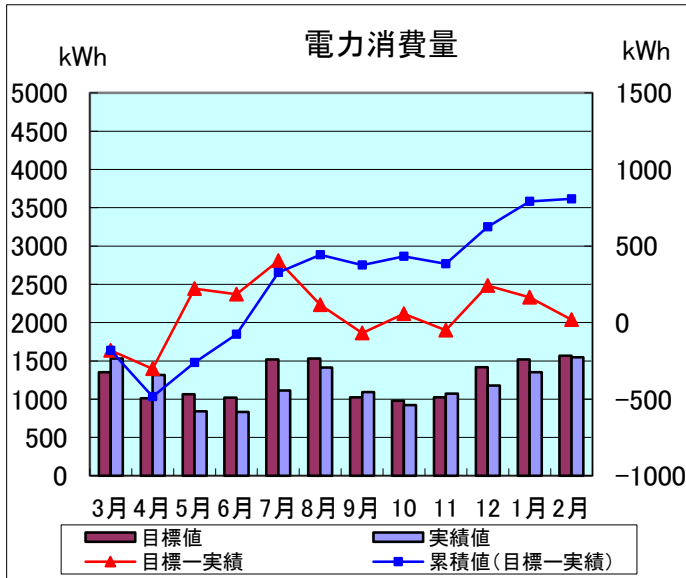
| 環境目標 | 基準数値 | 年度目標 (対基準年2015年) | | |
|----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| | 2015年度実績 | 2016年3月 | 2017年3月 | 2018年3月 |
| | | 2017年2月 | 2018年2月 | 2019年2月 |
| 1. 二酸化炭素 排出量削減(t) | 374.2 総収集量30345 t | 1%削減 370.5 | 2%削減 366.7 | 3%削減 362.9 |
| ①電力消費量 削減(kWh) | 15,177 総収集量30345 t | 1%削減 15,025 | 2%削減 14,873 | 3%削減 14,722 |
| ②車両燃料消費量 削減軽油(ℓ) | 128,387 総収集量30345 t | 1%削減 127,103 | 2%削減 125,819 | 3%削減 124,535 |
| 2. 廃棄物排出量 削減(t) | 1.63 総収集量30345 t | 1%削減 1.61 | 2%削減 1.6 | 3%削減 1.58 |
| 3. 水道使用量 削減(m3) | 887 総収集量30345 t | 1%削減 878 | 2%削減 869 | 3%削減 860 |
| 4. 5Sの励行 | | 毎週土曜ミーティング で20分指導実施 | 毎週土曜ミーティング で20分指導実施 | 毎週土曜ミーティングで20分指 導実施 |
| 5. 環境教育の実施 | | | | |

★ 電力排出係数 0.378(kg-CO2/KWh)

環境目標の実績(2016年度)

| | 2016 | 2016 | 評価 |
|------------------------------|---------|---------|--|
| | 目標値 | 実績値 | |
| 1. 二酸化炭素排出量削減 (t) | 370.5 | 376.7 | 収集運搬量(実績)2%増、二酸化炭素総排出量も2%増となったが会社全体ではt当たり-1%となり目標達成となったが、未熟練者増加による再確認作業等がco2増の一因であり更なる教育訓練により改善する。 |
| ①電力消費量削減 (kwh) | 15,025 | 14,217 | 収集運搬量2%増、使用量は6%削減を達成。 |
| ②車両燃料消費量 軽油 (ℓ) | 127,103 | 130,713 | 収集運搬量(実績)2%増、燃料総使用量(実績)は2%増となった。二酸化炭素排出量増加の主因であり更なる教育訓練により改善する。 |
| 2. 廃棄物排出量削減 (t) | 1.61 | 1.85t | 排出量は増加したが全量再利用。 |
| 3. 水道使用量削減 (m ³) | 878 | 1,025 | 収集運搬量(実績)2%増、水使用量は16%増 |
| 4. 5Sの励行 | | | 毎週土曜ミーティングで20分指導実施。今後とも教育訓練内容の充実の徹底を図る。 |
| 5. 環境教育の実施 | | | |

次年度の取組は全社員一丸となりCO2排出量を2015年度比-2%を必ず達成する。



主要な環境活動計画の内容と取り組みの評価と次年度の取組み

(◎81%~100%○61%~80%△60%以下)

| 環境目標 | 主要な環境活動計画の内容 | 評価 |
|---------------------------|--|------------------|
| 1. 二酸化炭素排出量削減 ①電力消費量削減 | 1) 不用時の消灯、電源OFF 2) TVの主電源OFF 3) 空調温度の適正化（冷房：28℃暖房：22℃） | ◎ ◎ ○ |
| ②車両燃料消費量削減 軽油、LPG | 1) 効率的な収集運搬作業の訓練を充実 2) 収集運搬経路の適正化 3) タイヤ空気圧の適正化 4) アイドリングストップ | △ ○ ◎ ◎ |
| 2. 廃棄物排出量削減 | 1) 再資源化の徹底により減量 | ○ |
| 3. 水道使用量削減 | 1) 節水呼びかけと節水コマ装着 | △ |
| 4. グリーン購入 | 1) 紙類・ペンは芯・蛍光灯はLED・タイヤはリトレットタイヤを選ぶ | ○ |
| 5. 5Sの励行 | 1) 全社員に徹底する | ○ |
| 6. 環境教育の実施 | 今年度も教育計画を作成し適宜実施を行う | ○ |

評価：昨年度更新審査時指摘事項を改善する事により従業員に変化が見て取れる。

EA21の審査を受ける事で従業員に指導し環境教育に務められる。

今後もPDCAサークルをして環境管理改善するように努める。-----

次年度の取組み 整理・整頓・清潔・清掃・躰の5sを意識し教育及びグループ毎のリーダーに指導する事で教育が行き届くと確信する。CO2・水削減・廃棄物を削減し地球環境に貢献する事を目指していく。

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

法規制等一覧表のチェックを行いました。この項目では違反は有りませんでした。

訴訟はこれまで有りませんでした。

代表者による全体の評価と見直し

* はじめに *

EA21 認証・登録に挑戦して以来、昨年度で連続10年認証・登録を達成出来ました。
社員共々良く頑張ったと自負しております。次の10年に向けて新たな心構えで活動致します。

* 経営状況 *

作業環境が厳しく、新規採用難が解消できない。

受託単価はほぼ固定されているが、ある程度の給与増をしていかないと現在人員の維持も困難で経営上、経費増が避けられない。

燃料価格・タイヤ・各種油脂類等は国際情勢により不安定さを増し、相当高騰し続けており一部補填された点もあるが、経営への悪影響が大きい状況が続いており、今後も当面悪影響が増大し続けると思われる。

以上の解決方法を速やかに検討して行かねばならない。

* 全体の評価 *

法令違反に相当する事案発生はゼロである。

2005年度に活動開始以来、単位運搬量(1トン)あたりの二酸化炭素排出量は10%削減を達成以降、概ね平行線で推移している

2016年度に於いては、収集運搬実績は昨年度比2%増・収集運搬車燃料(軽油)消費総量2%増であったが、電力・LPG・灯油・ガソリン等の消費削減に努めた結果、二酸化炭素(CO₂)排出量は△1%に留まった。

原因として、大きな要素が2点あり来年以降も手探り的なになっても改善努力を続ける。

- 1) 炎天下、寒風下、風雨中等の作業環境が避けられず、数年来の極端な労働力不足・新規採用難が続いており、募集関連費用も増加している。熟練者の高齢化とも重なり収集運搬技能が低下し、収集回数増・応援収集や収集漏れ有無確認等が増加している。
- 2) 経営資源が限られている中で、自動車メーカーでの収集運搬車の技術開発が大変遅れており、実質的な燃料高効率車導入ができない。試験的に高額を投じて*LPG車*を導入して約10年間運用実験を続けてきたが、全く効果が認められなかった。
逆に性能不足及びLPGスタンドが少なく運行効率が悪い上に高燃費が定常化し、今後も改善が期待できないとの結論から早々に運用停止していたが本年度で廃車処分にした。

* 見直し *

再挑戦開始と位置づけた今年度は一層作業員との対話を強め、作業環境の改善(収集運搬車両の冷房適正化)と休憩施設の拡充(ロッカー室増設により休憩室拡充)を行った。
次年度も引き続き未熟練作業員のマンツーマン実施指導訓練強化を一層進めて技能向上を図る。

新たな目標設定として

平成27年度実績を基準として平成32年度必達目標 * -3% * と設定する。

平成29(2017)年4月1日
三和興業有限会社
代表取締役 久保田 芳男